

令和6年度第1回社会教育委員会議 議事録

日時	令和6年5月29日（水） 10:00～11:40
場所	福岡市役所議会棟7階 第1・2応接室
出席者	別紙のとおり
議題	(1) 令和6年度社会教育関係団体補助金について
報告	(1) 提言を踏まえた取り組み ①令和5年度社会教育関係職員研修の実施状況等 ②生涯学習・社会教育の普及・啓発 ③産学官連携による生涯学習の取り組み～事例紹介～ (2) 令和6年度指定都市社会教育委員連絡協議会（開催予定）
公開・非公開	公開
傍聴人の数	なし

1 開会

教育次長あいさつ

2 委員の紹介

3 議題

(1) 令和6年度社会教育関係団体補助金について

○福岡市PTA協議会事業補助金

※岡村委員（福岡市PTA協議会） 退席

事務局（人権・同和教育課長）

（福岡市PTA協議会事業補助金について資料説明）

議長

ただ今の説明について、ご質問・ご意見等をお願いします。

委員

交付要綱第2条の本市の市税を滞納していないこととは、誰のことを指すのか。

また、一番最後の期限が令和7年3月31日をもって廃止するとあるが、今後どうなるのか。

事務局（人権・同和教育課長）

まず、市税の滞納をしていないことについては、団体が市税を滞納していないということである。「福岡市PTA協議会として滞納していないこと」ということになる。市PTA協議会としては、市税等は、かかっていない。また、終期は市の補助金交付要綱に基づき、その都度見直しを行っているので、今年度に来年度以降も継続するのか、見直しするのかを検討して、検討の結果、継続するということであれば、引き続き補助を行っていくということになる。

委員

誰が検討するのか。

事務局（人権・同和教育課長）

事務局で検討を行う。

委員

PTA 啓発研修大会の講師謝金が55万は大きいと思うが、規定はあるのか。

事務局（人権・同和教育課長）

内部規定として、研修担当課が出している講師謝礼の基準や、一般的な相場を考慮して、事務局で作成しているものはあるが、知名度や役職等によって、額が変わってくる。

委員

12月に行われた、PTA 啓発研修大会の講師謝金が55万支出されているのは、多いように感じるが。

事務局（人権・同和教育課長）

9ページの収支については、決算額は25万となる。

委員

25万は妥当ということか。

事務局（人権・同和教育課長）

民間企業の代表者であり、全国的に活動されておられる方であることから、金額的には高くなるが、妥当な額と考えている。

※岡村委員（福岡市PTA協議会） 着席

○福岡市立高等学校PTA連合会事業補助金

事務局（人権・同和教育課長）

（福岡市立高等学校PTA連合会事業補助金について資料説明）

議長

ただ今の説明について、ご質問・ご意見等をお願いする。

委員

先ほどの福岡市PTA協議会事業補助金の交付要綱と福岡市立高等学校PTA連合会事業補助金のひな型は一緒だと思うが、市税を滞納していないことについての記載はないので、福岡市PTA協議会事業補助金にも記載不要なのでは。また、最後の期限のところも、平成33年3月31日まで有効と書かれており、終わったよねと思ってしまった。このあたりは、整合性がとれるようにされた方がよいのではないかと思った。

事務局（人権・同和教育課長）

各要綱を確認し、記載を揃える。また、要綱の期限についての説明がわかりにくいということなので、わかりやすいように、記載したいと思う。

○人権啓発地域推進事業補助金

事務局（人権・同和教育課長）

（人権啓発地域推進事業補助金について資料説明）

議長

ただ今の説明について、ご質問・ご意見等をお願いします。

委員

人尊協への補助金を満額使い切っていることはあるのか。また、31ページの人権のつどいについて、最低1回は各区でやっていただいた方がよいと思うが、東区がなしというのが、令和5年度だけなのか、ずっとないのか伺いたい。

事務局（人権・同和教育課長）

補助金の額について、ほとんどの校区で25万円を使い切っているが、現在はコロナの影響で規模を縮小している校区もあり、令和5年度は14校区で返還されている。実際、コロナ前の平成30年は返還は1校区のみであり、25万円でやっていたり、また、自主財源をもっているところもあるなど、25万円が多いということではないと考えている。

委員

25万円以上の予算規模で動いているならいいが、無理して1円単位で最後調整しているところがあるなら、もっと適正な執行を考えられた方がよいと考える。

事務局（人権・同和教育課長）

事業報告書、収支報告書に基づいて、適切に審査し、交付する。また、もう一つのお尋ねの、東区が人権のつどいを実施していないということについて、令和4年度は、コロナの影響もまだ残っているということで実施されなかったが、令和5年度については全ての区で実施されている。令和6年度についても、各区で実施される予定であり、今後、各区で必ず1回は実施されることになるかと聞いている。

委員

先ほどの予算の話について、21ページをご覧になられたと思うが、私は人尊協ではなく、自治協で予算を立てる場合は、市からいただいた補助金は使い切るような計画を立て、一方で自主財源があるため、端数は繰越という形で予算を作るのではないかなと思う。21ページの例が、恐らくは、一番上の事務用品代 2,964 円というのが不自然かなというところで、自主財源が 10 万円あるため、予算で繰越というのを計上してもよいのではないかなと思う。そのようにご指導いただければ、不自然なところがなくなるのではないかな。実際、みなさん25万円は使っていらっしゃるのではないかなと思うので、自主財源のところで調整されているところが、ほとんどではないかなと思う。

報告(1)提言を踏まえた取り組みについて

議長

事務局から説明をお願いします。

事務局(生涯学習課長・南区企画振興課長)

(社会教育委員会議の提言の概要説明)

(令和5年度社会教育関係職員研修の実施状況等について説明)

(生涯学習・社会教育の普及・啓発について説明)

(産学官連携による生涯学習の取り組み～事例紹介～について説明)

議長

提言について、まずはみなさんから何かあるか。この提言は、月刊社会教育に掲載され、全国の社会教育関係者の目に触れることができた。提言が出されたというのは、ひとつの成果というか、関心を持たれることも多かったと思う。

委員

私のところには、月刊社会教育が出てから、何も反応がなかった。もし皆様の中で、このような声を聞いた等あればもっと知りたいと思うが。

議長

国にいた関係で、国の社会教育関係者と話しをする機会があるが、今、日本の社会教育そのものが、変わってきている。学習者は拡大してきているが、社会教育分野で人的・財的な縮小が見られる。平成18年の教育基本法の全面改正以降、日本は生涯学習体系に移行した。国の行政改革も全ての省庁関連行政で行われているという背景の中で、社会教育・生涯学習をどのように進めるかとの声が聞かれる。市長部局も含めた形の学習がどんどん進められている中で、全国の社会教育・生涯学習関係者が躊躇する時に、福岡市が提言を出してくださったというのは、みなさん注目している。我が国が、これから社会教育・生涯学習をどういうふうに展開するか、踏み込んだご意見を聞きたいが、国の担当の方とお話すると、「どうでしょうね」という感じで動きが見られないのが現状である。また佐賀県は、全国の中でも、社会教育施設をはじめ、市長部局、知事部局の意向が反映されているというような展開がなされている。佐賀県の行政にいた人とお話の中では、「社会教育はどうなるのか、課題だ」等の声も聞かれる。今後、この提言を踏まえて進めていくのは大事だと感じている。他にご意見ないか。

委員

別府の公民館の主事は、交換会の時に、この冊子が公民館にきたので読んだが、非常によい提言が書かれていると言っていた。自治協の中で、生涯学習を扱う団体がなくて、校区の中で展開がしにくいと思う。しいて言えば、自治協の会長か、公民館長と思うが、彼らはやっぱり生涯学習は自分の仕事と思われていないと思う。自治協の中でも、これは紹介されていなかったような気がする。結局、体育振興にしても、人尊協にしても、男女共にしても、福岡市の方から、校区でこういうのを分担してやりなさいよというのが来て、それに従って我々はやっているのだから、生涯学習みたいなものを校区の誰かがしなさいよと言ってくだされれば、こういうのを広げようという方がいるのでは。

議長

何か方法はないか。例えば、各種研修会等で 5 分でもいいから時間いただいて案内するような機会があれば、徐々に徐々に浸透していく形になりいいと思う。

委員

ボランティア団体をしていて、生涯学習は誰にでもできるもので、その垣根の高いものではなくて、低いもので、誰でもできるんですよというお話をさせていただいたことがある。みなさん、ご自分の団体の中で PR していただければ、大変うれしい。

委員

2016年に、これからの社会教育に関するあり方の提言を社会教育委員会議会で出したと思うが、探してもない。他の自治体だと提言集というようなページがあり、過去の提言がきちんといつでもダウンロードできるが、福岡市の場合は、恐らくこの提言も、あと2〜3年したら消えてなくなって、ダウンロードできなくなると思うが、例えば、松本市は、提言集平成21年からの8個の提言が全部ダウンロードできる。そういった形で、アーカイブではないが、見れるような形にしていだけないか。

事務局（コミュニティ推進部長）

検討する。今はみんな見て知っているだろうが、別の時にホームページを見られた方が、こういう経緯があるのかとか、そこでまた生涯学習の知る、学ぶ楽しさ、こういうことがあって広がりになるのかなと思うので、どういう形がよいのか、他都市を見ながら研究し、対応したいと思う。

また、先ほど、委員の方から、自治協に組織がないというところで、もっと色んな人に知ってもらえよという話があった。これまでの自治協議会の仕組みは、それぞれの分野ごとに、この分野を市が進めてくださいということで、補助金をだして、進めてきた。そこから、いやそうではなく、やはり地域の課題は、それぞれあり、校区の中でみんなで考え、必要と思うことをやっていこう、例えばここはバスが通らないから交通問題が一番の課題であるとか、ここはこどもが多いから、こどもに関する取り組みをいっぱいしようよとか、そういった地域主体でできるように、という風が変わってきた。そういった中で、元々この提言の中にあった、あらゆる部局、あらゆるものが学びであり、今から勉強してこうやって学習することだけが生涯学習ということではなくて、身近なことを知って、学んで行動に移す。生活の中でどう落とし込んでいるのか、と気づくのが生涯学習なのかなと思った。だからこそ、全ての部局に関係あるし、全ての人々に関係のあることなのかと。そういった視点は、自治協議会に担当者をおいても、中々広がらないので、大事なことを話し合って、地域づくりを進めていこうというのを、公民館も含めて、一緒に話していけたらと思う。

委員

教育委員会のトップページから、こんなのあるよというリンクを貼っていただければと思う。福岡市の色々な社会教育だけでなく、学校教育も含めた生涯学習のビジョンと思っているので、各部局において、自分たちが行っている色々な取り組みは、このビジョンにおいてはどのような位置づけになるのだろうか、とか考えてもらいたい。先ほど南区の取り組みをお話した

だいたとおり、この取り組みは、このビジョンのこれだよね、と説明できるように、背景というか、裏打ちという形で活用していただければ、ありがたい。関連して、もしお答えいただけるのであれば、学校教育の先生方は、このビジョンをどんな風にお読みになられたのか、もしよければお聞かせいただきたい。

委員

今、少しコロナも落ち着いて、特に中学校等は、どうやって体験学習を元に戻していこうかということを考えている。本校であれば、6月に大学訪問に3年生が行こうとか、職場体験は今まで通りのものに近づけようとか、高校とも関連のある授業に取り組んだり、お邪魔したりしようということを考えている。これを見させていただいた時に、もちろん学校が楽しい、学校が楽しい学びであることとご提示いただいたと同時に、他の機関の有効性あるいは、こども達だけではなく、こども達が卒業後も色々な所で学ぶ姿勢を身につけさせなければいけないということも感じさせていただいたので、大変夢が膨らむというか、もっと色々なことができるんじゃないかなということも考えている。また、図書館とか、博物館、美術館との連携、色々なスポーツクラブとの連携も、もしかしたらこれから広がっていくのかなと期待している。特に部活動の問題も社会問題となっていて、本校でも顧問のなり手が非常になくて、苦慮しているが、その関係でも、色々なスポーツクラブとの連携が社会全体で推進されていくと、こども達が活躍できる場所が、増えるんじゃないかなと期待していて、具体的に今これが本校の教育活動に活かされるのかということよりも、これから広げてほしいという期待がある。

委員

体験学習等は小学校でも増えている。この提言に、学びの楽しさが書かれているが、この生涯学習の考え方を広めていただけることで、今激動の社会状況が変わっている中で、集団生活に中々なじめず、学校に行けないこども達、フリースクール、色々な所に学びの場を求めるこども達が増えてきている。そういうところに、沢山のご理解をいただける、これが公民館、地域等、色々な所に広まっていくことで、色々な学びがあるんだということをご理解いただけるのが、とてもありがたいと思っている。先ほど、報告資料(1)―①に箱崎公民館の写真が載っていたが、こういう公民館でもこどもから大人まで学べる、どこにこどものアンテナが引っかかるかわからないので、色々なものをやってそこで引っかかるところで居場所を求められるというところが、生涯学習の基本と思っているので、この提言が広がることを望んでいる。

議長

報告(1)―①令和5年度社会教育関係職員研修の実施状況について、意見はいかがか。

委員

満足度が高くて、来年以降もぜひ続けていただきたい。

議長

報告(1)―②生涯学習・社会教育の普及・啓発について、意見はいかがか。
(各委員からの質問等なし)

議長

報告(1)―③産学官連携による生涯学習の取り組み～事例紹介～について、意見はいかがか。

議長

団体、大学等とは、連携協定は結んでいるのか。

事務局(南区企画振興課長)

連携協定を結んでいる。

委員

南区の取り組みは、やった後に、関係者が集まって、振り返りワークショップを実施しているのが、すごく素晴らしいと思った。

委員

職員向けに学習会や講演会をやられた成果は。職員やスタッフの感想はどうだったか。また、反省点等あがっていたら伺いたい。

事務局(南区企画振興課長)

大学の先生方、企業の方の熱心さに心を打たれた。きっかけを行政が作れば、自分の能力を進んで活かすような気持ちで取り組んでいただけるんだなというような信頼関係を職員は学んだと思う。

委員

行政が本気を出して動かれたから、こういった動きになったんだろうなと思った。中々指定管理の方に言っても、ここまでの動きにならないと思うし、大学も形式的な参加で終わっていたと思う。南区の企画振興課が中心となって動いていただいたので、こういった動きができたのかなと思った。ぜひ他の区もやっていただきたい。城南区も指定管理と講座の企画をやっているが、中々このような広がりが難しくて、企業や他大学との連携は、行政が間に入らないと、難しいのが実感としてある。

議長

今後の予定について、事務局から説明をお願いします。

事務局(生涯学習課長)

(今後の予定について説明。)

報告(2) 令和6年度指定都市社会教育委員連絡協議会(開催予定)について

議長

事務局から説明をお願いします。

事務局（生涯学習課長）

（令和6年度指定都市社会教育委員連絡協議会（開催予定）について説明）

議長

報告（2）について意見はいかがか。

（各委員からの質問等なし）

議長

新任の委員より、一言ずつ自己紹介をお願いします。

委員

南区で活動している者の一人だが、本当に嬉しかったのは、市民センターができてから、周りにある大学の生徒さんと一緒に活動していること。向こうから、高齢者とのつながりを勉強したいとお願いに来られた。それで今度は、子供たちとも、活動しているが、「僕たちは忙しいけん、なかなか来られん」と言われた。まあ、それは当然だと思うが、年末にお正月の飾りを作るのに沢山参加してくれた。その活動に、私はシニアクラブの女性部で手伝いをして、子供たちが出来ない部分を女性部で、それもそこには市民センターがちゃんとバックに入ってくれた。会場がないと私たちも活動できない。去年から色々な活動ができています。今日は来てよかった。

委員

部落解放同盟福岡市協議会執行委員という立場で、この会に参加させていただいている。前回までは、委員長が参加していたが、実は今日委員長は、佐賀県で部落解放全九州研究大会というものがあっている。それも一つの生涯学習の中での研究問題をしっかりと学ぶという、その中には先ほどから色々な方出てきました大学の先生もいらっしゃいますし、それこそ企業の方たちも、分科会の中でも報告をしてくださったり、学ぶ場というのは、すごく大事なところだという風に思っている。私の立場からすると、部落差別をなくすということと、自分としての考え方とかお願いが色々なところでもあるわけですが、そのほかにも生涯学習と言うのであれば、乳幼児からそれこそ高齢者まで、生きる場所というか、居場所づくりを色々な形で、色々な場所でやっていかなければいけないと常々思っている。私が今放課後児童クラブというところで、放課後の子供たちの一年生から六年生までの児童たちが、学ぶ場というか活動する場にお邪魔させていただいている。そこも一日を踏まえての子供たちの生活のリズムを学んでいく場であり、学ばせていく場所だと思っている。

委員

今回生涯学習という大きなテーマがあったけれども、学びに関しては凄くシンプルに考えていて、どこで学ぶにせよ自分らしく生きていくのに必要な知識技能スキルを身に付けていくことだと思っている。そういう力を最初の学校段階から育てていけば、いわゆる学び直しは必要ないんじゃないかと思っています。その観点から、生涯学習をするにあたって今、学校がどうしても、私もそうでしたが、全員一斉教育、全員同じ教育をやって平均的なところに合わせて、同じ教科書で同じやり方でやっていくということを主流でやってきたものをこれからは、一人ひとりの学び方にあわせた個別最適化教育といいます。アジャストして子どもの学びたいという力だとか意欲に火をつけてやっていけないといけないと思っています。

る。当然、大学や企業など社会との関わりというのがあったが、学校が閉じた場所ではなく、自分の生涯や身の回りの社会と結びついているという繋がりを実感できる学びとしていかなければならないという思いがある。福岡市の教育振興基本計画の第2次計画が終わって、来年度第3次計画と新しいものになり、市議会、教育委員会と協議しながら、これからの学校教育のあり方を根本的に見直して生涯を通じて学び続けられるようなマインドを育てていくという意味で、今年度は大きな時期になると思う。今年度は社会教育委員の知恵とお力をお借りしながらやらせていただきたい。

議長

最後に一言意見があるか。

委員

第二次教育振興基本計画に社会教育が抜けていて、学校教育だけの振興計画だったので、第三次教育振興基本計画には社会教育も含めた総合的な教育振興計画を福岡市としても策定していただけないかと思う。

閉会

令和6度第1回社会教育委員会議出席者名簿

【社会教育委員】

委嘱区分	氏 名
学校教育関係者	青木 理枝
	増田 瑞穂
社会教育関係者	中島 瑞恵
	岡村 耕二
	行友 ハルミ
	萩尾 憲子
	田中 真理子
	齋藤 光子
	上村 篤子
	下山 いわ子
家庭教育関係者	重永 侑紀
学識経験者	坂口 よしまさ
	古市 勝也
	圓入 智仁
	添田 祥史
	植上 一希
	小田原 耕一郎

【事務局】

役 職	氏 名
教育次長	福田 大二郎
教育委員会総務部長	中尾 聡志
教育委員会指導部長	齊藤 啓一
市民局コミュニティ推進部長	小林 由希子
市民局コミュニティ推進部生涯学習課長	茅野 美佐
教育委員会総務部人権・同和教育課長	大和 優子
南区総務部企画振興課長	吉崎 謙作